

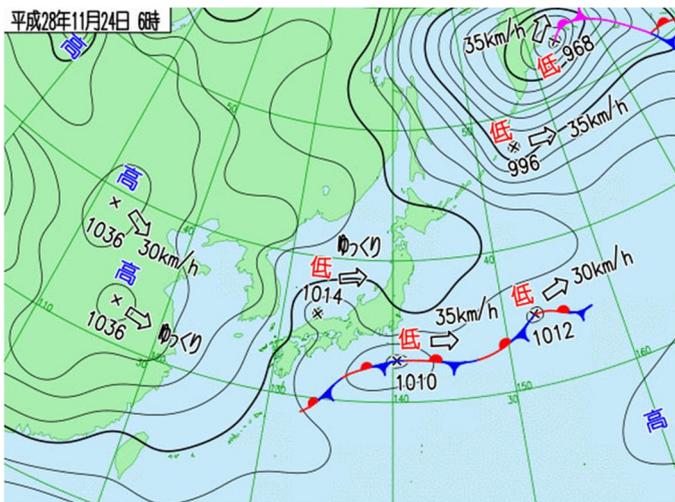
「11月の雪を探究する(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今日、東京に雪が降って、わずかだが積雪もあった。どちらも記録的な出来事だという。東京で11月に「降雪」が観測されたのは、昭和37年以来、実に54年ぶり(横浜や甲府も同様)、「積雪」に至っては、明治8年に統計を取り始めて以来、初の観測だという。

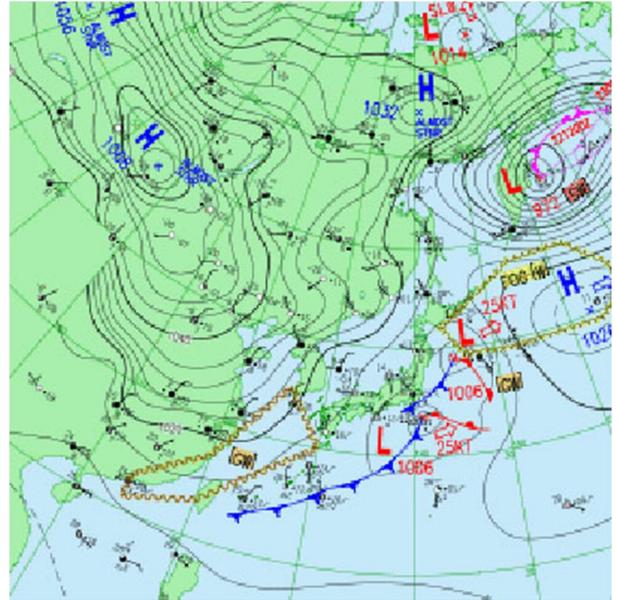


暦の上では冬とはいえ、実際の東京の季節は「秋」まっただ中である。校庭のイチョウも、やっと色づき始めたばかりだ。そんな時期に雪が降って、まだ葉の残る木々は、さぞかしたまげたに違いない。



今回、関東地方の広域に降雪や積雪をもたらした、直接の原因は「南岸低気圧」である。上図は11月24

日午前6時の天気図である。関東の沖に前線を伴った低気圧があり、これらの通過時に雪が降ったのだ。



今の時期、南岸低気圧が通過すれば、南関東は間違いなく雨になる。これだけでは、今日の雪は説明できない。上図は、2日前の11月22日午前9時の極東域の天気図である。シベリアのヤクーツク付近に、極めて優勢な高気圧(1068hPa)が蟠踞している。この「爆弾高気圧」が巨大な冷氣塊を成長させ、季節はずれの強烈な寒気を東日本に南下させた「真犯人」である。



休み時間の教室から、嬉しそうに雪を見る子どもたち。「重さ」や「電磁石」は待ってくれるが、「降雪」は決して待ってくれない。私はこの稀に見る気象現象を、すぐに「教材化」しようと思った。